

## 島津日新公いろは歌

- い いにしへの道を聞いても唱へても  
わが行ひにせずばかひなし
- ろ 楼の上もはにふの小屋も  
住む人の心にこそはたかきいやしき
- は はかなくも明日の命をたのむかな  
今日も今日もと学びをばせで
- に 似たるこそ友としよけれ交らば  
われにます人おとなしき人
- ほ ほとけ神他にましまさず  
人よりも心に恥ぢよ天地よく知る
- へ 下手ぞとて我とゆるすな稽古だに  
つもらばちりも山とことの葉
- と 科ありて人を斬るとも軽くすな  
いかす刀もただ一つなり
- ち 知恵能は身につきぬれど荷にならず  
人はおもんじはづるものなり
- り 理も法も立たぬ世ぞとてひきやすき  
心の駒の行くにまかすな
- ぬ ぬす人はよそより入ると思ふかや  
耳目の門に戸ざしよくせよ
- る 流通すと貴人や君が物語り  
はじめて聞ける顔もちぞよき
- を 小車のわが悪業にひかれてや  
つとむる道をうしと見るらん
- わ 私を捨てて君にし向はねば  
うらみも起り述懐もあり
- か 学文はあしたの潮のひるまにも  
なみのよるこそなお静かなれ
- よ 善きあしき人の上にて身を磨け  
友はかがみとなるものぞかし
- た 種となる心の水にまかせずば  
道より外に名も流れまじ
- れ 礼するは人にするかは人をまた  
さぐるは人をさぐるものかは
- そ そしるにもふたつあるべし大方は  
主人のためになるものと知れ
- つ つらしとて恨みかへすな我れ人に  
報ひ報ひてはてしなき世ぞ
- ね ねがはずば隔てもあらじいつはりの  
世にまことある伊勢の神垣
- な 名を今に残しおきける人も人  
心も心何かおとらん
- ら 楽も苦も時すぎぬれば跡もなし  
世に残る名をただ思ふべし
- む 昔より道ならずしておごる身の  
天のせめにしあはざるはなし
- う 憂かりける今の身こそは先の世と  
おもへばいまぞ後の世ならん
- み 亥にふして寅には起くとゆふ露の  
身をいたづらにあらせじがため
- の のがるまじ所をかねて思ひきれ  
時に到りて涼しかるべし
- お 思ほへず違ふものなり身の上の  
欲をはなれて義を守れひと
- く 苦しくとすぐ道を行け九曲折の  
末は鞍馬のさかさまの世ぞ
- や やはらぐと怒るをいはば弓と筆  
鳥にふたつのつばさとを知れ
- ま 万能も一心とあり事ふるに  
身ばし頼むな思案堪忍
- け 賢不肖もちひ捨つると言ふ人も  
必ずならば殊勝なるべし
- ふ 無勢とて敵をあなどることなかれ  
多勢を見ても恐るべからず
- こ 心こそ軍する身の命なれ  
そろゆれば生き揃はねば死す
- え 回向には我と人とを隔つなよ  
看経はよししてもせずとも
- て 敵となる人こそはわが師匠ぞと  
おもひかへして身をもたしなめ
- あ あきらけき目も呉竹のこの世より  
迷はばいかに後のやみぢは
- さ 酒も水流れも酒となるぞかし  
ただ情あれ君がことの葉
- き 聞くことも又見ることも心がら  
皆まよひなりみな悟りなり
- ゆ 弓を得て失ふことも大将の  
心一つの手をばはなれず
- め めぐりては我が身にこそは事へけれ  
先祖のまつり忠孝の道
- み 道にただ身をば捨てむと思ひとれ  
かならず天のたすけあるべし
- し 舌だにも齒のこはきをば知るものを  
人は心のなからましやは
- 系 酔へる世をさましもやらでさかづきに  
無明の酒をかさぬるは憂し
- ひ ひとり身をあはれと思へ物ごとに  
民にはゆるすところあるべし
- も もろもろの国や所の政道は  
人に先づよく教へ習はせ
- せ 善に移り過れるをば改めよ  
義不義は生れつかぬものなり
- す 少しきを足れりとも知れ満ちぬれば  
月もほどなき十六夜のそら